


ワークショップの開催概要

日時	平成27年11月5日(木) 19:00~21:00	 会場全体
会場	村上市役所4階 大会議室	
参加者	18名	
目的	「村上市歴史的風致維持向上計画」の策定にあたり、地域住民の意向を反映すること。	
内容	<p>説明：歴史的風致の維持・向上のための取組（ハード面）と支援内容について</p> <p>グループ討議：歴史的風致の維持・向上のための取組の検討</p> <p>テーマ ■城下町村上としてのストーリーをつくる ■4点セットを活用するためのそれぞれの取り組みを考える</p>	

歴史的風致とは？

地域固有の歴史及び伝統を反映した人々の活動と、その活動が行われる歴史上価値の高い建造物及びその周辺の市街地とが一体となって形成してきた良好な市街地の環境のことです。



城下町の4点セットとは？

城下町は4つの要素【城（跡）・武家町・町人町・寺町】で構成されます。村上には、現存する村上城の遺構のほか、城下町時代の地割がほぼそのまま残り、武家町の武家屋敷や生垣、町人町・寺町の町家や歴史的建造物などが残っています。この4つの要素がすべて残っているのは全国的にも珍しく、村上には歴史・文化的に非常に貴重な城下町です。

村上城下町の4点セット

●城跡（お城山）

村上城は中世後期に臥牛山（標高135m）に築かれた城です。江戸時代に入ると、越後北部の中心として整備されました。



城跡一帯には戦国時代や江戸時代に築かれた石垣や土塁等の遺構が混在しています。（村上城跡：国指定史跡）

●武家町



城跡を守るように広がる武家町は、特徴的な生け垣や茅葺の武家屋敷が残っています。

若林家住宅（国指定重要文化財）は、部屋割が細かく土間が狭いことなど間取りに侍屋敷らしい特色があり、中級武家屋敷の遺構として価値が認められています。

●町人町

町屋は、間口が狭く、奥行が長い平入りの屋根が特徴です。



茶の間や囲炉裏、奥まで続く土間など、江戸や明治の面影が感じられます。

現在では、市民による「町屋の人形さま巡り」や「むらかみ町屋再生プロジェクト」等が行われています。例：井筒屋（国登録有形文化財）

●寺町



お寺と歴史ある料亭や割烹が連なっており、曲がりくねった小路とともに特徴的な通りとなっています。

浄念寺の本堂（国指定重要文化財）は珍しい白壁土蔵造であり、日本で一番大きなことも特徴です。松尾芭蕉が「奥の細道」の途中で、訪れたことでも知られています。

グループ討議の結果の概要

※太文字は複数班から出たご意見

要素	拠点整備	町並み整備	回遊性向上・その他
城跡（お城山）	<ul style="list-style-type: none"> <li>●お城（15万石）の雰囲気。→江戸時代の門跡等の活用。→お堀の復元。</li> <li>●国道7号側からの眺めも意識するべき。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>●旧城門付近で大型車も入れる駐車場の整備が必要。</li> <li>●お城山・七曲り坂での眺めを楽しむ工夫。→既存のブナ林、桜の活用。</li> </ul>
武家町	<ul style="list-style-type: none"> <li>●周遊の起点となる追手門（大手門）の復元。→飯野門、下渡門の整備。</li> <li>●若林家住宅と比較できる住まい（上級武士と下級武士）の復元。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●追手門→お城山ルートを生垣整備。</li> <li>●親水空間の整備（お堀・里川の復元）</li> <li>●土塁の名残の活用。（追手門付近の桜並木の延伸。松並木の復活）</li> <li>●鐘つき堂の復元。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●追手門付近に駐車場を整備。</li> <li>●藤基神社→お城山ルートの魅力の維持・延伸。</li> <li>●まいづる公園～庚申堂ルート。→まいづる公園で郷土料理やお茶が楽しめる仕組みがほしい。</li> <li>●幕末・戊辰戦争縁のルート。（吉田松陰が歩いた道など）</li> </ul>
町人町	<ul style="list-style-type: none"> <li>●第四銀行のレンガ車庫の保存。</li> <li>●堆朱屋の誘致（職人町）。→職人の仕事風景を見せる。</li> <li>●低未利用地の活用。（町屋広場、十輪寺前駐車場など）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●既存の町屋を保存し、核とした旧出羽街道の町並み整備。（例：大町小町通り）</li> <li>→久保多町～小町の間はできるだけ今の形を残す。</li> <li>→商業地は入替が多く、年金暮らしの方も多いため、早急な対応が必要。→鮭（つるし）のまちなみを残す。</li> <li>●出羽街道沿線は「重伝建」の選定を想定した対応が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●歩行者と歴史的な建物がメインの道づくり</li> <li>→車道の狭さを維持。</li> <li>→電線を地中化。</li> <li>→歩道と車道をフラット化。</li> <li>●町人の町として、商売のことも考える必要がある。</li> <li>●札の辻（高札場）など、標識のデザインを統一する。</li> <li>●雰囲気のある外灯を整備。</li> </ul>
寺町		<ul style="list-style-type: none"> <li>●小路の魅力を伝えたい。（黒塀の景観、芭蕉が歩いた道）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●お寺・神社の魅力を発信。（例：浄念寺、十輪寺、法音寺、伊勢神明社など）</li> <li>●食（精進料理）をテーマにしたルートの設定。</li> </ul>
全体・その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>●古地図を見て、元々そこにあったもの、移設したものの区別が必要。</li> <li>→移設してしまうと価値は変わる。</li> <li>●茶畑を大事にしたい。</li> <li>●種川をきれいにしたい。（鮭の姿は感動する）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●北線～寺町間の坂等の地形変化に着目すべき。</li> <li>●時代別（江戸時代）に色調などを統一する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●江戸時代の地図で歩ける町を残す。</li> <li>→実際に現地を見て、4点セットが感じられる仕組みづくり。</li> <li>●道路舗装の色で歩行ルートを区別する。</li> <li>●歩いてまち中を周遊するため、広い通り沿いに駐車場を整備。</li> <li>●今住んでいる人の理解・協力が不可欠。</li> </ul>

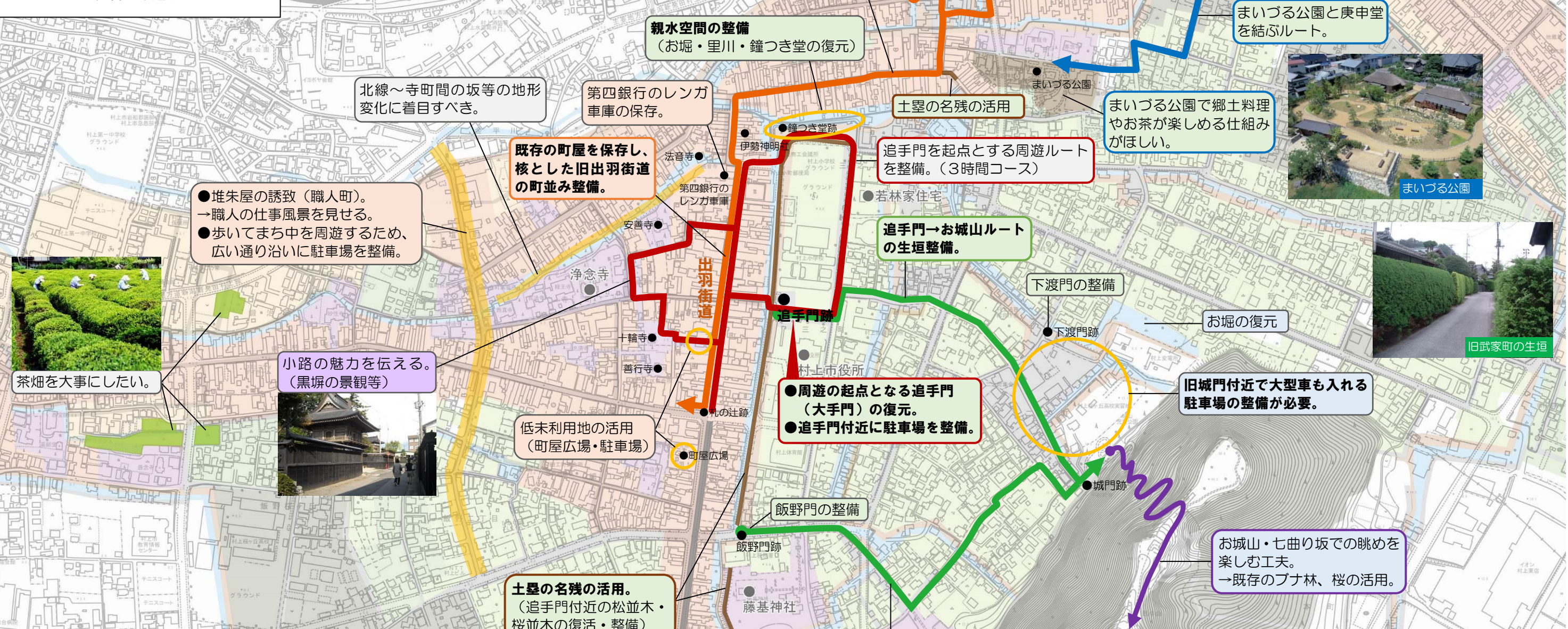
村上城跡図 正徳年間(1644-1648)

※意見の位置、その他のご意見は裏面をご覧ください。



■グループ討議 歴史的風致の維持・向上のための取組の検討結果（主なご意見） ※太文字は複数班から出たご意見

- ルート・街道の凡例**
- ルート
  - 追手門起点の周遊ルート
  - お城山へのアクセスルート
  - 村上城跡登城ルート
  - まいづる公園～庚申堂ルート
  - 出羽街道
  - 三国街道中通り



茶畑を大事にしたい。

● 堆朱屋の誘致（職人町）。  
→ 職人の仕事風景を見せる。  
● 歩いてまち中を周遊するため、  
広い通り沿いに駐車場を整備。



小路の魅力を伝える。  
（黒塀の景観等）

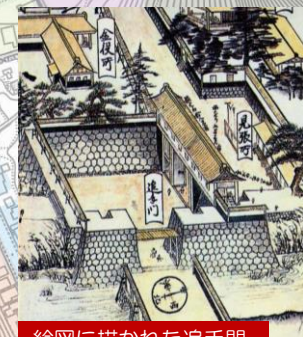
**《その他のご意見》**

【全体】 ● 駐車場が不足している。  
● 原形を残していないものが多いため、「原形を残すこと」と「整備すること」の違いを認識した方がよい。

【武家町】 ● 建物の保全・復元よりも生け垣整備が適当である。  
● 追手門から、武家町、城跡、町人町、寺町への展開を考えることが望ましい。  
（追手門は戦後まで武家町と町人町の行政界で、切磋琢磨してきた文化の境目）

【町人町】 ● 町屋・小路の研究を進め、歴史的背景を伝えたい。

- 凡例**
- 土屋敷
  - 足軽長屋
  - 町屋敷
  - 山林原野草地
  - 道路
  - 社寺
  - 河川・堀
  - 畑地
  - 土塁
  - 茶畑
- 「明治初年城下絵図」より作成



絵図に描かれた追手門



お城山からの眺望



まいづる公園



旧武家町の生垣